

## 優先出資返済後、漁協は



「優先出資返済後を考え議論している」と話す阿部誠専務

### 阿部誠専務に方向性を聞く

当組合の財務基盤は東日本大震災で大きく揺らいだが、経済をはじめとする諸事業の順調な推移で優先出資返済が見通せるほど力がついてきた。組合員の努力と協力が大きい。本年度の上半期が過ぎたところで、阿部誠専務に、間近となった優先出資返済と今後の組合の経営、事業運営について方向性を聞いた。

## 組合員の収益向上が前提

9月までの上半期が終わり、本年度事業の決算で震災特例優先出資66億8千万円の返済が確実に進みましたか。

阿部誠専務 4、5月のノリ、8月までのギンザケが高値、ホタテは死

滅で残念な経過となっているもの、上半期は計画より上振れた。下半期はカキ、ノリ、ワカメ中心で、ホタテは減っていく。ノリは宮城産の評価が上がって、5月までと大きな差はないとみて

行つては自己資本比率10%以上が必要で、われわれは好、不漁なども考慮し12%以上を目指してきた。昨年度事業の決算で優先出資を返しても12%はクリアできた。本年度の事業実績を見極めた上

私としては、ワカメ、ノリ、ギンザケはこれまで水揚げが安定、価格にも恵まれ組合の実力以上の成果が現れた可能性があり、これから3カ年、5カ年の平均でみていくことが必要と考えている。返済後も好、不漁、価格の浮き沈みは必ずあり、それでも利益を出せるような体制、それに見合うような組織にしていかねばなら

減で残念な経過となっているもの、上半期は計画より上振れた。下半期はカキ、ノリ、ワカメ中心で、ホタテは減っていく。ノリは宮城産の評価が上がって、5月までと大きな差はないとみて

行つては自己資本比率10%以上が必要で、われわれは好、不漁なども考慮し12%以上を目指してきた。昨年度事業の決算で優先出資を返しても12%はクリアできた。本年度の事業実績を見極めた上

私としては、ワカメ、ノリ、ギンザケはこれまで水揚げが安定、価格にも恵まれ組合の実力以上の成果が現れた可能性があり、これから3カ年、5カ年の平均でみていくことが必要と考えている。返済後も好、不漁、価格の浮き沈みは必ずあり、それでも利益を出せるような体制、それに見合うような組織にしていかねばなら

私としては、ワカメ、ノリ、ギンザケはこれまで水揚げが安定、価格にも恵まれ組合の実力以上の成果が現れた可能性があり、これから3カ年、5カ年の平均でみていくことが必要と考えている。返済後も好、不漁、価格の浮き沈みは必ずあり、それでも利益を出せるような体制、それに見合うような組織にしていかねばなら



7年ぶりとなった9月29日のカキむき始め（石巻湾支所）

### 当組合ノロウイルス自主検査海域の変更点

平成28年度	平成29年度
志津川湾	伊里前湾
荻浜湾	志津川湾
石巻湾中央部	石巻東部湾
	荻浜湾
	万石浦
	石巻湾中央部



須田政吉部会長

鮮カキの共取入札が9月29日、始まった。同日

のシーズン入りは平成22年以来、7年ぶり。全体的に放卵が進んだため、身入りの回復も早く好調な滑り出しとなっている。今季の生産見込みは昨シーズン（16999ト）をやや上回る1750ト。これまで台風やシケによる被害は限定的で、順調なシーズンが期待される。

入札開始は昨シーズン（10月10日）に比べ10日余り早まった。事前の品質検査で、当組合のかき部会（須田政吉部会長）と買受人がそれぞれ9月29日出荷可能と判断し、

両者の合同協議で決定した。この日の開始は県の指導方針に基づく。滑り出しの出荷は日産13〜15トペースで昨シーズンを上回る。早めの身入りを反映したもので、例年より前倒しで出荷ピークを迎えつつある。これから価格維持に願いがかかっている。

地区別の出荷ペースはおおむね、北部3〜4ト、中部8〜9ト、南部1.5〜2ト。北部地区については昨年12月より中部の石巻入札に上場。一方、当組合は今季、ノロウイルスの自主検査海域を試験的に見直し、11海域のうち3つについて、それぞれ分割して3海域増やし14に細分化した。狙いは「安全・安心のいっそうの強化」（菊地清経済事業担当理

事）。海域の細分化は組合員からの要望もあった。分割海域では一方が陽性となっても他方は陰性なら

願いたい。今漁期は、宮城県カキ養殖振興連絡調整会議を通じ、宮城産のブランド力を前面に押し出すとともに安全・安心のPRなどで消費拡大につなげていくと考えている。漁業者は誰しも昨年12月のノロウイルス風評被害の影響が心配で、危機感を共有する買受人の団体、県と

# カキ身入り早く浜に活気

## ノロ検査、3海域を分割

## 本所部会で役員改選

### 佐藤俊勝氏「自立復興の節目」

当組合本所部会の委員が任期満了に伴い改選、9部会で新しい長と副を互選で決めた。任期は7月から3カ年。

新任の部会長は6人のり部会の佐藤俊勝氏と仙台湾小型の鈴木政志氏は副部会長から上がった。県小型の豊嶋祐氏は委員から就任。かき部会の須田政吉氏は石巻総合支所の部会で長年副部会長を務めた。ぎんざけ

部会は初めて長、副を選出した。新部会長を代表しりのり部会の佐藤氏に抱負を聞いた。

東日本大震災から6年7カ月が過ぎ、震災復興5カ年事業も一区切りとなった。支援から自立復興への節目で、ノリ養殖業を支えてきた先輩たちのパトンを次世代に引き継ぐ大役と考えている。宮城ののりを全国レベルに押し上げる良い機会と考える。そのためには当たり前だが、漁場の養殖生産環境の健全を促進することも一連

生食向け出荷を継続でき、リスク軽減につながる可能性があるからだ。なお、貝毒検査はこれまで通り11海域。

れ、私なりのやり方で漁業者と組合の発展に寄与したいと思っている。それには皆さんの協力が必ず必要不可欠で、よろしくお

ともにPR活動に力を入れていきたい。品質については、高橋文生前部会長のところから「良いものを」と言ってきたが、浸透しきれていない部分がある。品質が一番で、良くないとほかの産地に太刀打ちできない。生産者サイドでも意識を高くもってもらいたい。

### 当組合本所部会の新役員

（「新」は新任、「再」は再任。下段は所属支所）

部会	部会長	副部会長
のり	佐藤俊勝・新 七ヶ浜	千葉勝・新 石巻地区 菊地勇・新 宮戸
わかめ・こんぶ	佐藤俊市・再 志津川	大澤幸広・再 表浜
かき	須田政吉・新 石巻地区	後藤清広・再 志津川 渡辺茂・再 鳴瀬
ほたて	大江清明・再 女川町	横江昭・再 雄勝町雄勝湾 遠藤薫・新 志津川
ほや	阿部次夫・再 女川町	阿部松之助・再 歌津 渡邊喜廣・新 寄磯前網
ぎんざけ	阿部敏雄・新 女川町	佐藤正浩・新 志津川
磯根資源	菅原徳光・新 大谷本吉	小野寺孝治郎・新 歌津 遠藤仁・新 寄磯前網
宮城県小型漁船漁業	豊嶋祐二・新 石巻地区	及川一志・再 歌津 阿部一二郎・再 谷川
仙台湾小型漁船漁業	鈴木政志・新 七ヶ浜	木村優治・新 表浜 後藤修・新 仙南(巨理)

# 協同組合論

北海学園大学経済学部教授

濱田 武士

10



北海道産ホタテ半成員の移入養殖が厳しさを増している。県内では大震災後、地種からのシフトもあり主流となったが、価格が毎年上がって高騰、昨シーズンから増えた死滅は経営を圧迫し、養殖存続が危ぶまれない状況だ。対策は



菊地清理事

## 窮地のホタテ養殖

# 半成員移入に低利融資も

## 菊地清理事「資金面は対応可能」

あるのか、当組合の菊地清理事が専任理事に聞いた。

道産半成員の養殖

で当面の課題は今季移入の資金繰り。10月下旬ごろから入り始めるが、経営は2年続けて厳

しく、購入資金に頭を痛める人が多くなっています。菊地清理事 今年の状況は予想以上に深刻。理事に就いた7月、すぐに信用共済部と相談し、この秋の移入に間に合うよう、従来からある短期運転資金の



厳しさが増すホタテ半成員養殖

金利引き下げによる対応と期限延長による返済猶予の対応、さらには長期資金の活用により返済を計画的にする資金等を準備している。

これら3本の融資は9月19日に開いた気仙沼、石巻両総合支所合同のほたて部会で説明した。資金面は対応できると考えており、スピーディーな融資を図っていく。

秋に半成員を入れなければ養殖を継続できず、そうした融資の努力はありがたい。だが、高率の死滅が続けば厳しさに拍車がかかる。県内でできる抜本的な対策として、地種の割合を上げたり、それを後押しするパールネットや洗浄機など資材、設備の支援も求められているの

協同組合はいろいろで弱い。協同組合運営に参加する組合員は、少く、その代わり組合員間の縛りはほとんどありません。都市部にある生協、農協、信用金庫などは、こうした側面が強い。一方、村落型は、組合員が世襲的に受

継がれていて、顔と顔のつながりが強く、加入・脱退の動きが激しくありません。村落の共同体的性格が強く、協同組合運営への参加が強く求められており、事業利用など組合員間の縛りが強い。農山漁村部にあ

る要因を挙げると、次のようなことが言えます。一つ目は、組合員数の減少に伴い合理化が進められて、職員数が減っていること。組合員への職員の対応が十分にできなくなっています。二つ目は、広域合併によって組

織の母体が大きくなっている点です。事業は通常本所管理となっているため、事業の運営方針を支援（旧単協）によって断で決定できず、組織の小回りが利かなくなっています。三つ目は、村落型といえ、世代交代が進み、都市部から帰還してきた組合員が増え、かつ情報化時代になつてきているゆえに、若手を中心に都市的感覚をもった組合員も増えている点です。そのこ

とで、旧来と比較すると、感情的に衝突するところが減っていますが、組合員間の関係が希薄化

し、組合員と役員との距離も徐々に離れるようになっていきました。この20年間でより強くなりました。これからの傾向は強まる可能性があります。したがって、これからは、この状況をどう乗り越えるかが課題となつていきます。もちろん、漁協は生産者団体であるので、都市型の協同組合にはなり得ません。新たな村落型の協同組合のあり方を探さざるを得ないのですが、その実現は容易ではありません。支所単位で協同組合らし

い事業を経済的に成立させながらも、希薄化する組合員間、距離が広がる職員―組合員間の関係を問い直さなければならぬからです。ちなみに、協同組合は、「支え合い」、「助け合い」を事業の形にして経営する組織形態です。そのため、村落型協同組合の事業実施には組合員に守ってもらわなくてはならないことも多いのです。この忘れがちな原則も含めて現代漁協が抱える課題を、役員だけでなく、組合員にもま

ずはわかってもらう必要があります。昨今、よく使われる「改革」というのは、そこから始めるしかないと思えます。

「若い人たちは新しい情報とかやり方を取り入れるのがうまいので、逆に俺たちが教えられることもあります。」

## 青年部

歌津支所 約50人の部員を擁する歌津支所青年部。その活動は活発で長い歴史を誇り、部員同士のコミュニケーション、若い漁業者のスキルアップの場とし

て機能してきた。技術や知恵を受け継いで次の世代へとつなげ、さらに新しい感性を取り入れる。若い力が歌津の活気ある漁業を支えている。

ワカメ、ホタテ、カキ、ホヤなどの養殖が盛んな歌津。水産業中心の町の、多くの組合員を抱える漁協の青年部として、単協時代から盛んに活動

せながらも、希薄化する組合員間、距離が広がる職員―組合員間の関係を問い直さなければならぬからです。ちなみに、協同組合は、「支え合い」、「助け合い」を事業の形にして経営する組織形態です。そのため、村落型協同組合の事業実施には組合員に守ってもらわなくてはならないことも多いのです。この忘れがちな原則も含めて現代漁協が抱える課題を、役員だけでなく、組合員にもま

## 技術つなぎ、団結共助

アワビ・ウニ・ホヤと活発

また、地種にすると水揚げまで2年、3年かかる生活資金の対応も課題。地種は努力もかかる。地種を徐々に増やし、半成員を少しずつ減

らしていく考えもひとつである。魚種転換を考えている人もあるが、漁場の問題があり、既存の漁業者との調整が焦点となる。全国青年・女性漁業者交流大会で水産庁長官賞に輝いた。今年には潜って海藻のあるところに移殖を試みる。

組合が水産試験場と提携して震災前から行っているアワビの中間育成では、5月過ぎに種苗センターから稚魚を取り寄せから11月の放流までの管理を任せられている。震災後に始めたのがホヤの採苗。年末にタンク採苗をして1月半ばに沖出しし、成長を見ながら管理して、9月半ばごろに注文を受けた地元生産者に受け渡す。全て青年部で行っている。



①左から、阿部和善副部長、島山義博部長、阿部勝文副部長、名足出張所阿部桂太さん ②アワビの中間育成作業 (昨年11月)



「アワビの中間育成」 「ホヤの採苗」など。ほかに南三陸町の観光課に頼まれれば観光客に養殖を説明し、催事があれば協力するなど、地域密着で活動している。

磯焼け対策は以前から行っていたが、昨年は磯焼けの原因となるウニを人工の餌で養殖する試験

「自分たちの分かることを次の若い人たちに伝えて、さらに継承していったらいいですね」と阿部勝文副部長。彼らもやはり青年部活動を通して先輩たちから漁業のさまざまなことを教わってきた。



# ワカメ県内屈指、サケ増殖で貢献



大谷本吉支所 組合員893人、うち准748人。職員は5人。販売取扱は2億5400万円。基幹産業はワカメで2億1100万円。ほかにアワビ3700万円など。ワカメの品質は定評があり、単価は県内トップを誇る。

## 震災も養殖者減らず

大谷本吉のワカメは昔から県内でも最高の評価を得ている。密殖せず、普段から組合員が適正管理を行っている賜物と小野寺俊昭支所長は話す。小型サンマ棒受網、カジキの流し網をはじめ、漁船漁業も盛んだ。昨年から自営定置網の復旧も進

め、協同経営で再開。かつてはマグロをかなり捕っていた。

震災では、2階建ての事務所の上を津波が越えていった。3年前に、同じ場所に日本財団の番屋再生事業で事務所を再建。周囲にたくさんあった住宅も今はないが、「いち早く復旧したこと

で組合員はじめ地域の皆さんに元気を与えたといふのは確かだと思えます」と小野寺支所長は当時を振り返る。

震災年の秋にはワカメ養殖施設の復旧を始め、翌春水揚げを再開。本吉地区の養殖漁業者は減少したが大谷地区はほとんど減ることがなかったという。

## 4年後の秋サケ守る

全力で守ったのがサケのふ化事業。同支所は小泉川のサケふ化放流の事務局も担当。震災前は気仙沼大川と並ぶ県内屈指の秋サケを上河川で、平成21年には8万4000

尾が上っている。手作業で池の中の泥やがれきを撤去し、なんとか秋までに応急的に復旧。1年も休むことなくふ化事業を再開した。県内主要ふ化場のひとつとして、4年後の宮城の秋サケ収入に大きな穴を開けてはいけぬ、ようやくこの上がろうとしていく漁業者たちをまた転ばせるようなことになつてはいけぬと、県、市、事業団体とともに力を尽くした。ふ化室は4年間テントで乗り切った。

## おばちゃん倶楽部再開

復旧した事務所に設置した調理室を使って、女性部4人による「おばちゃん倶楽部」も活動を再開した。震災前に道の駅の敷地内にあった加工センターで養殖わかめの中芯を利用した「浜福神漬け」を開発、食アメニティコンテストで農林水産大臣賞を受賞している。現在は週4日活動し、浜福神漬けや「かぼちゃまんじゅう」を道の駅で販売。毎年秋に行われるツール・ド・東北のエイドゥーションでもかぼちゃまんじゅうとわかめ汁を提供している。

「とにかく元気」と小野寺支所長は笑う。「震災を受けて家に閉じこもっているんじゃない、こういうところに来て、生きがいをもてるということが元気の理由なんですよね。」

本吉地区には、被災地で一番高い14・7メートルの防潮堤が建設される。事務所の目の前にも9・8メートルの防潮堤が立ち、その上を国道45号線が走る予定。やがて事務所から海が見えなくなると、芳賀勝壽運営委員長は残念がる。

アワビが豊富に採れ、震災前には水揚げ1億円超えが続いたという浜。「震災で磯焼けが進み、水揚げが落ち込んでいくのが悩みの種」という芳賀委員長。以前は道の駅でにぎわったウニ祭りや大漁まつりもできなくなった。防潮堤の工事が終わる頃には海の環境も落ちついてくれるのではと期待する。

## 大谷本吉

## 支所を訪ねて

## 石巻市東部

芳賀勝壽運営委員長

小野寺俊昭支所長

石森裕治運営委員長

阿部晃佳支所長



## 新事務所で不便解消

牡鹿半島西側、仙台湾に面したら浜を管轄。今年8月に番屋再生事業で事務所も完成し、狐崎浜から鹿立に移った。「今まで購買品の在庫の置き場もないような状態で、これでやっと組合員さんに不便をかけずに済む。震災前から言っている

「夢と希望のある漁村、安定した漁家経営」を目指して職員・組合員一丸となつてやっていきた」と阿部晃佳支所長。基幹産業のカキ養殖は潮の速い外洋で荒波にもまれる環境。台風や低気圧で落下しないようグラブ方式を用いている。この方式は三十数年前に石森裕治運営委員長も

ンバーだった青年部が開発した。ほかにない厳しい環境で育てたカキは、身がぎゅつと締まり甘みが強いという。「特別おいしい。もう食べたらすぐわかるから」と石森委員長は胸を張る。

そのカキも、チリ沖地震と東日本大震災の被害に、2年連続遭つた。やとと資材を借金して整え、「さあ来年からまた新しくスタートすぞ」という時だった。

## ワカメに助けられる

ワカメは震災後に始めた。カキが津波で全部やられたため、カキ出荷ま

での間収入をつなぐものはワカメしかなかった。激甚災害の適用にはならず、全て借金して資材を取り寄せた。やり方も分からず、アルバイトでワカメの仕事を手伝った経験のある人に作業を教わつて、手探りで始めた。皆不安でたまらなかつた。ところが震災後初めての収入が翌春のワカメと

なった。4000万円。それがいまは、色も肉厚も評価され、カキに次ぐ1億4000万円を超える収入をあげている。後継者をなんとかこの海で働かせたいの思いで、「借金してもいいからやっぺし」と、思い切つて手を挙げたと石森委員長は振り返る。

その年の秋に、なんとか作ったカキを殻付きで出荷。支所は3年4年と赤字が続くが、カキ、コウナゴ、ワカメの3種がようやくそろそろ頃になつて黒字に転換できた。「震災後しばらくは苦しかったね。でもとにかくこつこつ真面目に海に出てればなんとかなる」と石森委員長は力を込める。

若く活気のある浜 決して便のいい土地ではないが、後継者・若い漁業者が多く活気がある。ここ数年は、各浜で結婚も相次いでいるという。「昔からの漁村で、家は継ぐものという気概が自然と育っていくんじゃないかな」と石森委員

長。これも支所が力を入れた。安定した養殖業ならでは。さらには、三ヶ月前から青年部主導で、1日8時間作業と労働環境を整えたことも、後継者確保や嫁を迎える点で功を奏している。青年部も女性部も、若い人たちの姿が多い。カキまつりなどのPR活動のほか、青年部では一粒種の出荷までやってみようという試験。今後はナマコの種苗生産から放流までを計画。女性部は、浜で採れた魚介を使ったレシピ動画をYouTubeで発信している。漁閉期となる7〜9月の水揚げが今後の課題。青年部や女性部の研究対象にもなっている。

# 荒海にもまれ甘くなる自慢のカキ

石巻市東部支所 組合員92人、うち准26人。職員6人。販売取扱は、28年度で9億2600万円。うち、カキは約半分の4億3600万円、ほかにコウナゴ、ワカメ、その他定置や底引網などの漁船漁業が盛ん。外洋で荒波にもまれたカキの味は絶品といわれる。



「夢と希望のある漁村、安定した漁家経営」を目指して職員・組合員一丸となつてやっていきた」と阿部晃佳支所長。基幹産業のカキ養殖は潮の速い外洋で荒波にもまれる環境。台風や低気圧で落下しないようグラブ方式を用いている。この方式は三十数年前に石森裕治運営委員長も

ンバーだった青年部が開発した。ほかにない厳しい環境で育てたカキは、身がぎゅつと締まり甘みが強いという。「特別おいしい。もう食べたらすぐわかるから」と石森委員長は胸を張る。

そのカキも、チリ沖地震と東日本大震災の被害に、2年連続遭つた。やとと資材を借金して整え、「さあ来年からまた新しくスタートすぞ」という時だった。

での間収入をつなぐものはワカメしかなかった。激甚災害の適用にはならず、全て借金して資材を取り寄せた。やり方も分からず、アルバイトでワカメの仕事を手伝った経験のある人に作業を教わつて、手探りで始めた。皆不安でたまらなかつた。ところが震災後初めての収入が翌春のワカメと

なった。4000万円。それがいまは、色も肉厚も評価され、カキに次ぐ1億4000万円を超える収入をあげている。後継者をなんとかこの海で働かせたいの思いで、「借金してもいいからやっぺし」と、思い切つて手を挙げたと石森委員長は振り返る。

その年の秋に、なんとか作ったカキを殻付きで出荷。支所は3年4年と赤字が続くが、カキ、コウナゴ、ワカメの3種がようやくそろそろ頃になつて黒字に転換できた。「震災後しばらくは苦しかったね。でもとにかくこつこつ真面目に海に出てればなんとかなる」と石森委員長は力を込める。

若く活気のある浜 決して便のいい土地ではないが、後継者・若い漁業者が多く活気がある。ここ数年は、各浜で結婚も相次いでいるという。「昔からの漁村で、家は継ぐものという気概が自然と育っていくんじゃないかな」と石森委員

長。これも支所が力を入れた。安定した養殖業ならでは。さらには、三ヶ月前から青年部主導で、1日8時間作業と労働環境を整えたことも、後継者確保や嫁を迎える点で功を奏している。青年部も女性部も、若い人たちの姿が多い。カキまつりなどのPR活動のほか、青年部では一粒種の出荷までやってみようという試験。今後はナマコの種苗生産から放流までを計画。女性部は、浜で採れた魚介を使ったレシピ動画をYouTubeで発信している。漁閉期となる7〜9月の水揚げが今後の課題。青年部や女性部の研究対象にもなっている。

## 秋の味覚がいっぱい 当組合参加のイベント

イベント名	開催日	開催場所
仙南支所(亘理)番屋お披露目式	10月20日	仙南支所(亘理)
ベガルタ	10月21日 11月26日	ユアテックスタジアム
JA石巻収穫祭	10月28日	石巻西営農倉庫など
仙台・海の観光&旨いものフェアin栃木	10月28~29日	栃木県
イオン石巻フェア	11月3日	イオン石巻店
日本財団ソーシャルイノベーションフォーラム2017	11月17~18日	東京国際フォーラム
名古屋市場祭り	11月19日	名古屋市場
第16回石巻かき祭り	11月23日	石巻市水産総合振興センター
カキ祭り	12月3日	東松島市
ふるさとプラザ(カキ祭り)	12月9~10日	東京

この秋も、さまざまなイベントで蒸しガキやカキ汁、蒸しホヤ、焼きホタテ、そしてサーモンの刺身など、当組合自慢の味覚を販売します。キッチンカーも随時出動。ベガルタ仙台的試合では、ゴージャスカレーやホヤメンチもすっかり知られるようになりました。



長い列ができたベガルタ仙台的試合での販売(8月)